

●優秀賞

思考力を育む 社会科学学習の創造

～社会参画の視点を取り入れた
地域学習を通して～

愛知県清須市立西枇杷島中学校 くわはら 桑原 あきら 啓



1 主題設定の理由

情報化や国際化により急激に変化し多様化する社会を担う生徒には、社会的事象を単なる知識としてとらえるだけではなく、社会をとらえる広い視野から得た知識を活用し、自分の考えをつくりあげる力が必要とされる。新学習指導要領では、社会科において言語活動を基盤として、思考力・判断力・表現力を確実に育むことが重視されている。その中で、思考力・判断力を育む活動が、学習内容についての理解や認識を一層深めることも示されており、思考力・判断力・表現力の育成は、重要な課題であると言える。

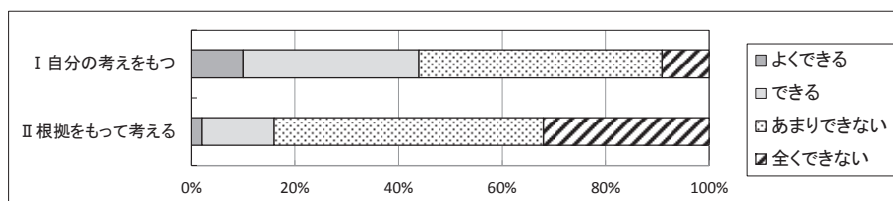
本校の1年生150名を対象に「考えること」についての事前調査を行ったところ、資料1のような結果が得られた。

自己評価の「Ⅰ自分の考えをもつ」ことについて、「よくできる」「できる」という評価をした生徒が約45%で、全体の半数以下となっている。また、自己評価の「Ⅱ根拠をもって考える」

ことについては、「よくできる」「できる」という評価をした生徒が約16%と圧倒的に少なくなっている。

実際に、生徒の様子を見ると、社会的事象について事実と自分の考えを整理することが苦手で、自分の考えをもつことができていない場面が多く見られる。また、自分の考えをもっている、その根拠がなかったり、根拠が個人的なものに終始したりしていることも少なくない。日頃から根拠をもって考えたり、考えたことを言語によって表現したりする活動が十分にできていないからである。つまり、社会的事象の意味や事象間の因果関係をとらえ、社会をとらえる広い視野から根拠を見つけ出し、それらを表現するといった力が十分に育成されていないから、根拠に基づいた自分の考えをもつことができていないのである。

そこで、本研究ではこれらの力を「思考力」ととらえ、根拠に基づいた自分の考えをつくりあげることができるようの方策を講じ、「思考力」を育成することをねらいとした。



資料1 「考えること」についての生徒の自己評価（11月実施）

2 研究の基本的な考え方

とができる生徒。

(1) めざす生徒像

社会的事象について、調べたことを根拠に事象の特色や課題を考察し、自分の考えをもつこ

(2) 身につけさせたい思考力について

育成したい思考力の定義と構成要素を次のように定義した。

思考力	とらえる力	事実を認識し、社会的事象の意味や事象間の因果関係を理解すること
	分析する力	自分の考えをもつために必要となる事実を取捨選択すること
	自分の考えをもつ力	言語を用いて、根拠に基づいた自分の考えを構築すること

(3) 研究の仮説

社会参画の視点を取り入れた地域学習において、根拠に基づいた自分の考えをもつための工夫をすれば、生徒は地域的特色や課題について、自分の考えをもつことができるようになり、思考力を育成することができるだろう。

3 研究の方法

(1) 研究構想図

(●めざす生徒像 次ページ参照)

(2) 仮説に対する手だて

めざす生徒像に迫るために、仮説に対する手だてを以下のように試みる。

ア 社会参画の視点を取り入れた地域学習を次のように設定する。

- 市が作成した資料を活用して調べ学習を行う。
- 市のキャッチフレーズを考えたり、「市の紹介文」レポートを作成したりする。
- 「提案書」を作成し、市役所の企画課に提案する。
- 市が企画する『清須“夢”会議』に参加し、市役所（企画課）の方と話し合う。

イ 根拠に基づいた自分の考えをもてるようにするために、次のような工夫をする。

- 指導過程を大きく「つかむ」「追究する」「まとめる」の3段階に設定する。
- ウェビングマップの作成によって、自分の知識や経験を視覚化する。

○ 資料の読み取りにおいて、視点を明確にして読み取りを行う。

○ 調べて分かった事実を「情報」(D)の欄、自分の考えを「結論」(C)の欄、考えの根拠を「理由」(W)の欄に図式化した「ツールミンモデル」を用いたワークシートを活用する。

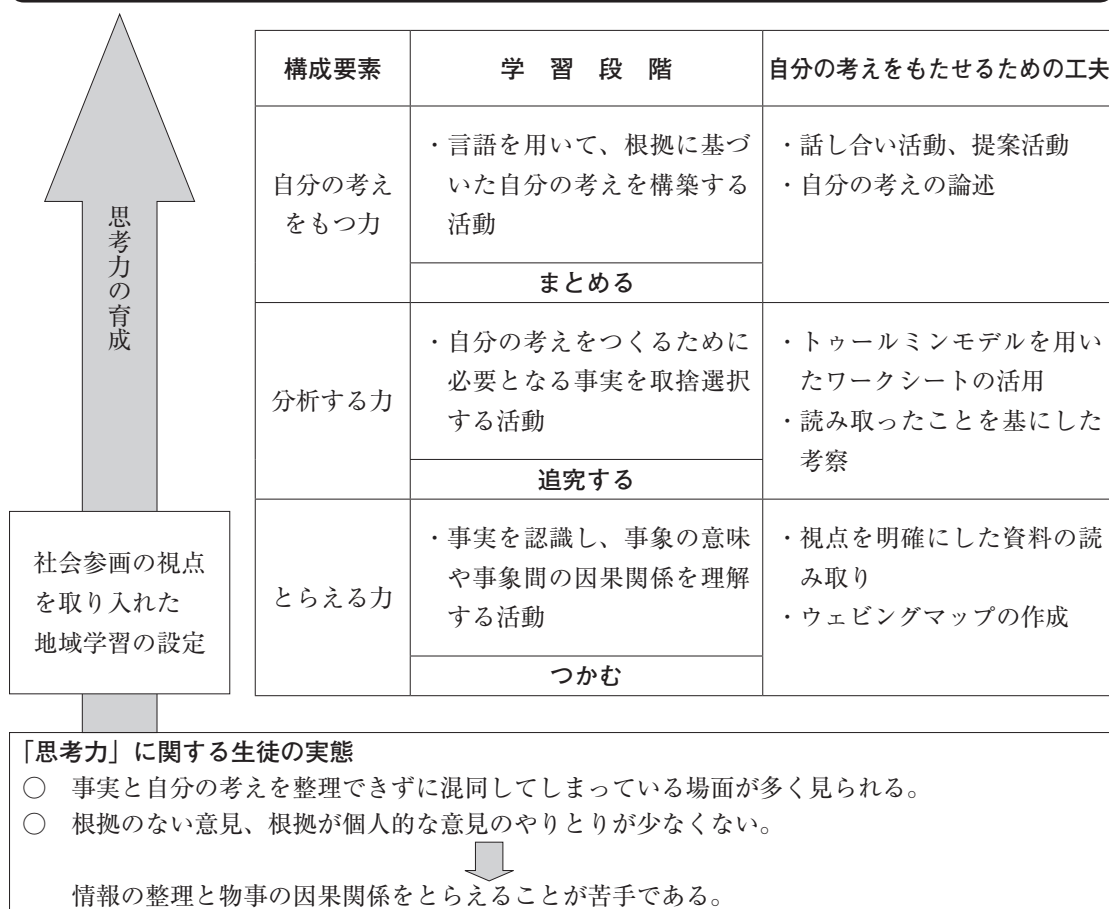
(3) 抽出生徒

本研究では、生徒Aを抽出生徒として、活動の様子やワークシートの記録から変容を追うことで、仮説の検証を行っていきたい。

生徒A
社会科への関心は高く、知識も豊富であるが、様々な課題に対して自分の考えをもつことが苦手である。また、自分の考えをもつことができた場合においても、根拠がなかったり、「何となく」「自分はそう思うから」といった感覚的で個人的な理由づけも多く見られたりする。本実践においては、身近な地域についての興味・関心を高めさせ、根拠に基づいた自分の考えをもつことができるようにするとともに地域社会に参画しようとする意識を高めさせたい。

●めざす生徒像

社会的事象について、調べたことを根拠に事象の特色や課題を考察し、自分の考えをもつことができる生徒。



(4) 単元について

「身近な地域を調べる」(10時間完了) 対象：中学1年生(150人)

ア 本単元を設定した理由

地域固有の課題が山積する現在は、住民参加による自立した地域づくりや、課題を自らの判断と責任に基づき解決する人材の育成が求められている。このような人材の育成は、中学校社会科では公民的分野のみならず、歴史的分野や地理的分野も重要な役割を果たす領域であると考えられる。新学習指導要領では、「地理的分野の学習において子どもたちが生活している地域に


対する理解と関心を深め、その発展に努力しようとする態度を育てることを重視する」とした上で、従来の地域的特色をとらえるための視点や方法を身につけさせることから、地域的特色や地域の課題をとらえることに主眼を置いた趣旨の文言に改められている。そして、具体的には、内容の(2)の「エ 身近な地域の調査」の中で、社会参画の視点を取り入れた調べ学習を行うことを明示している。地域学習は、生徒にとって比較的身近な題材を取り上げることで、学習課題に対する意欲化を図ることができ、自分の考えをもつことを育む単元として適している。

本校の生徒に、身近な地域である清須市についての事前アンケートを行ったところ、清須市についての興味・関心は決して高いとは言えない結果だった。本単元で学習する清須市について知っていることを挙げさせてみたが、出てくる意見は小学校で学習した身近な地域、つまり旧西枇杷島町のことばかりで、清須市の特色である歴史的な事柄についての認識もほとんどないのが実態であった。合併を続けたこともあり、清須市というとらえ方が十分にできていないと考えられる。「清須市に大型ショッピングモールが必要か」という質問については、「必要」と答えた生徒が58%と「必要でない」を上回ったが、その理由の大半は「近くにあったほうが便利だから」という個人的で短絡的な内容だった。また、「将来も清須市に住みたいか」という質問については、意見が半々に分かれたが、

理由を見るとどれも深く考察しての結論ではなかった。

以上のことから、生徒は清須市の特色を知らないだけでなく、合併によって新しく誕生した清須市の全体像がつかめていないということが分かった。このことから、清須市について根拠をもって自分の考えをもつに至らないだけでなく、地域社会に参画しようとする意識も育っていないことが分かる。そこで本単元において、社会参画の視点を取り入れた地域学習を設定することで、生徒の地域社会へ参画しようとする意識を高めさせ、本研究でねらいとする思考力を育成していきたいと考えた。

イ 単元の指導計画

段階	学習活動	指導の手だて・支援	思考力の育成
	1 身近な地域について、調べるテーマを設定し、調べ方を考えよう。 ○ 清須市について、思い浮かぶことをウェビングマップで表す。		
つかむ	2・3 清須市の地域的特色をとらえよう。 ○ 清須市の土地利用図を作成する。 ○ 土地利用図を読み取り、地域的特色をとらえる。 ○ 清須市のキャッチフレーズ「○○のまち清須市」を考える。 ○ 市役所のキャッチフレーズを参考に、調べるテーマを設定する。	○ 四つの中学校の校区を示した上で、読み取り活動を行わせる。 ○ 土地利用図から読み取ったことや前時に作成したウェビングマップを基に、清須市のキャッチフレーズを考えさせる。 ○ そのキャッチフレーズにした理由も考えさせる。	【身近な事象をとらえる】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 事実を認識し、事象の意味や事象間の因果関係を理解する。 </div> <div style="text-align: center;">  とらえる力 </div>

段階	学習活動	指導の手だて・支援	思考力の育成
つかむ		○ 市役所のキャッチフレーズには、「水・歴史」という語句があることから、この二つの視点については必ず調べさせるようにする。	
	なぜ清須市は「水と歴史に織りなされた」まちとよばれているのだろうか？		
	○ 調べ方を知り、どの方法で調べるか考える。	○ テーマに応じた調べ方があることに気づかせる。	
追究する	<p>4・5 清須市の地域的特色・課題を調べよう。</p> <p>○ 清須市のハザードマップの読み取りから、「水」に関わる課題をとらえる。</p> <p>○ 清須市のホームページを中心に、インターネットによる調べ学習を行う。</p> <p>6・7 現在の清須市について、まとめたことを発表しよう。</p> <p>○ 清須市の紹介文を作成し、清須市の全体的な地域的特色をとらえる。</p> <p>○ 紹介文を発表し合う。</p>	<p>○ 防災の視点から「水」について調べさせる。</p> <p>○ 環境・開発・伝統の視点から「歴史」「個人テーマ」について調べさせる。</p> <p>○ 前時までに学習してきた清須市の特徴を統合する形で、まとめさせる。</p> <p>○ 文章だけでなく、図や資料なども使い、見やすくまとめさせる。</p>	<p>【調べたことから考える】</p> <p>自分の考えをつくるために必要となる事実を取捨選択する。</p> <p>↓</p> <p>分析する力</p>
まとめる	<p>8・9 将来の清須市の姿を考えよう</p> <p>○ 現在の清須市の地域的特色・課題を見つめ、具体的に将来の清須市の姿について話し合う。</p> <p>○ 話し合ったことを踏まえ、自分の考えを言語を用いて表現するために、清須市に対する「提案書」を作成する。</p>	○ 市役所資料「清須市建設総合計画」を参考に、話し合いをさせる。	<p>【考えをまとめる】</p> <p>言語を用いて、根拠に基づいた自分の考えを構築する。</p> <p>↓</p> <p>自分の考えをもつ力</p>

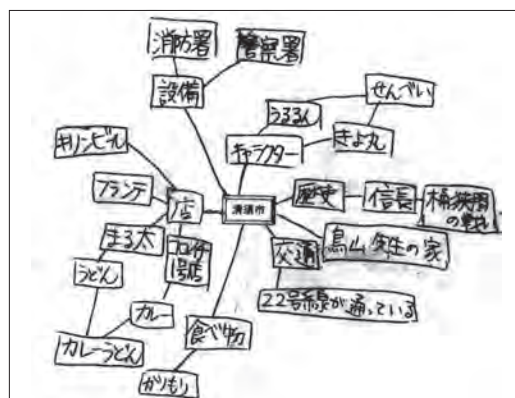
段階	学習活動	指導の手だて・支援	思考力の育成
まとめ	10 将来の清須市について、市役所の方を招いて発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲストティーチャーから市が考える将来像について話を聞く。 ○ 将来像に対する感想を交換し、将来の清須市への関心を高める。 	○ 清須市建設総合計画の作成に携わった方に来ていただく。	

4 研究の実際

(1) つかむ段階（第1～3時）

第1時では、これから学習を行っていく清須市を、生徒自身の生活との関わりから「身近な地域」ととらえることができるように、一人ひとりにウェビングマップ（資料2）を作成させた。幅広く考えが出るように、清須市について思い浮かぶことを自由に図に書くよう指示をしたため、生徒のワークシートには多様な意見が見られた。生徒Aについては、「歴史」「交通」「店」「市のキャラクター」などの視点が見られた。

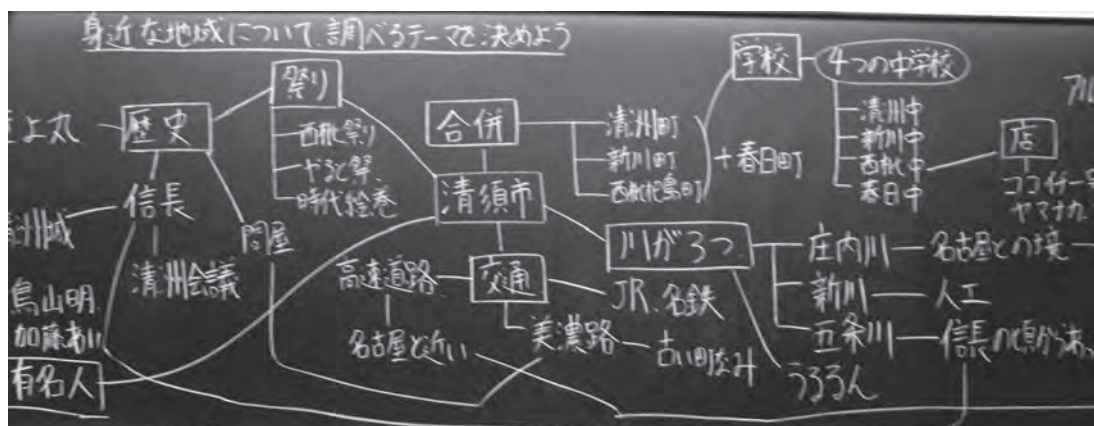
生徒が視点ごとに分類して発表した意見を教師が板書してまとめたものが資料3である。板書によって情報を共有し合う中で、自分では忘れていた生活経験を思い出したり、友達の発表によって、新たな関連を発見したりするなど、事象間の因果関係を理解しながら、自分自身の生活と結びつけて清須市をとらえようとする姿



資料2 ウェビング（生徒A）

が見られた。

第2・3時では、清須市の土地利用図を作成させ、その読み取りを行わせた。地図には、清須市内にある四つの中学校を示すことで、読み取りを行う際の目安にするとともに、それぞれの中学校区の土地利用の特色をとらえさせようと考えた。



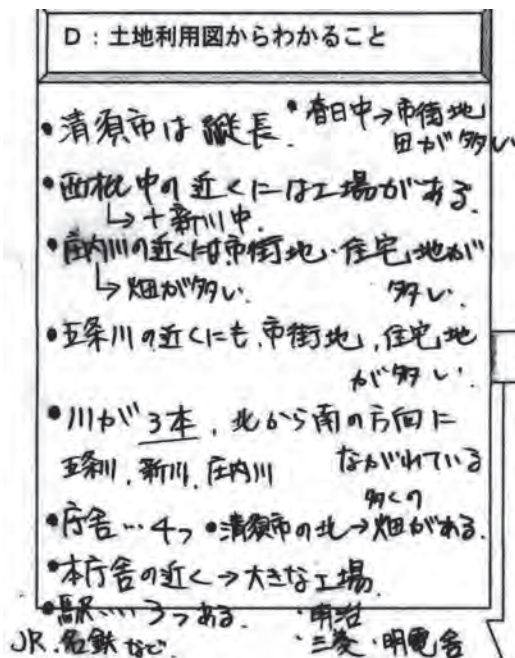
資料3 板書によるまとめ



資料4 生徒が作成した清須市の土地利用図

資料から分かる情報を箇条書きで、できるだけ多く書き表すよう指示をした。資料5は生徒Aのワークシートの一部で、読み取った情報が箇条書きで書かれている。生徒Aのワークシートからは、河川の周囲の土地利用の様子についての読み取りが見られた。また、西枇杷島中・新川中・春日中・清洲中など市内の中学校を基にした表現も見られ、それぞれの土地利用の特色をとらえようとしていた。

生徒Aのように、西枇杷島中や新川中の校区に、大きな工場が密集していることや春日中の校区に田畑が多いことに気づくことができた生



資料5 土地利用から読み取ったこと（生徒A）

徒は多く見られた。これらの読み取った情報を学級で共有する中で、様々な興味や疑問が生徒の間に生まれた。主な内容は次のとおりである。

- 川沿いに田や畑が多いのは分かるが、清須市の河川沿いは住宅地が多く見られるのは、なぜだろう。
- 西枇杷島中や新川中の近くに大きな工場が多いのはなぜだろう。
- 清須市には、いろいろな鉄道が通っていて、高速道路も通っているので交通の便がよいと思った。

表1 生徒の読み取った市内の中学校区の特色

西枇杷島中学校区	新川中学校区	清洲中学校区	春日中学校区
・鉄道（駅）が多い。	・市役所がある。	・大きな道路が交わる。	・一番田や畑が多い。
・大きな工場が密集している。		・田や畑が多い。	
・川沿いに住宅街が多い		・川沿いに田や畑が多い。	
・大きな河川が流れている。			
・高速道路が通っている。			
・国道や県道など大きな道路が通っている。			

← 市全体の特色となっている。

土地利用図から読み取ったこれらの情報と前時に作成したウェビングマップを基に、生徒一人ひとりに清須市のキャッチフレーズを考えさせた。以下に挙げるのが代表的なものである。

「交通の便利な歴史のまち」
 「豊かな水と水害のまち」
 「信長と大手工場のまち」
 「三川と歴史のまち」
 「名古屋に近い交通のまち」
 「織田信長と川のまち」 など

生徒から出されたキャッチフレーズには、ウェビングマップの作成で出された歴史的なことから、土地利用図の読み取りから出てきた「河川」「交通」といった内容のものが多く見られた。**資料6**は生徒Aの考えたキャッチフレーズである。生徒Aも他の生徒と同様に「川」「歴史」「交通」に注目したものとなっていた。その後、実際に市役所の考えたキャッチフレーズ「水と歴史に織りなされた安心・快適な環境都市」を紹介した。生徒は自身の考えたキャッチフレーズと比較し、着目した視点が似通っていたことについて驚きや喜びといった様々な反応を見せていた。市のキャッチフレーズの中にある「水と歴史」については全員共通の追究テーマとし、さらに個人で考えたテーマについても、調べる方法と必要な資料を挙げさせた。

○ 清須市のキャッチフレーズを考えよう

川と歴史と交通 のまち清須市

○ 調べるテーマ「なぜ 清須市は 歴史、水、交通のまちといえるのだろうか」

調べる方法 インターネット 市役所のホームページ

必要な資料 土地利用図

資料6 キャッチフレーズ（生徒A）

(2) 追究する段階（第4～7時）

清須市の地域的特色だけでなく、そこから見えてくる様々な地域的課題について理解させた

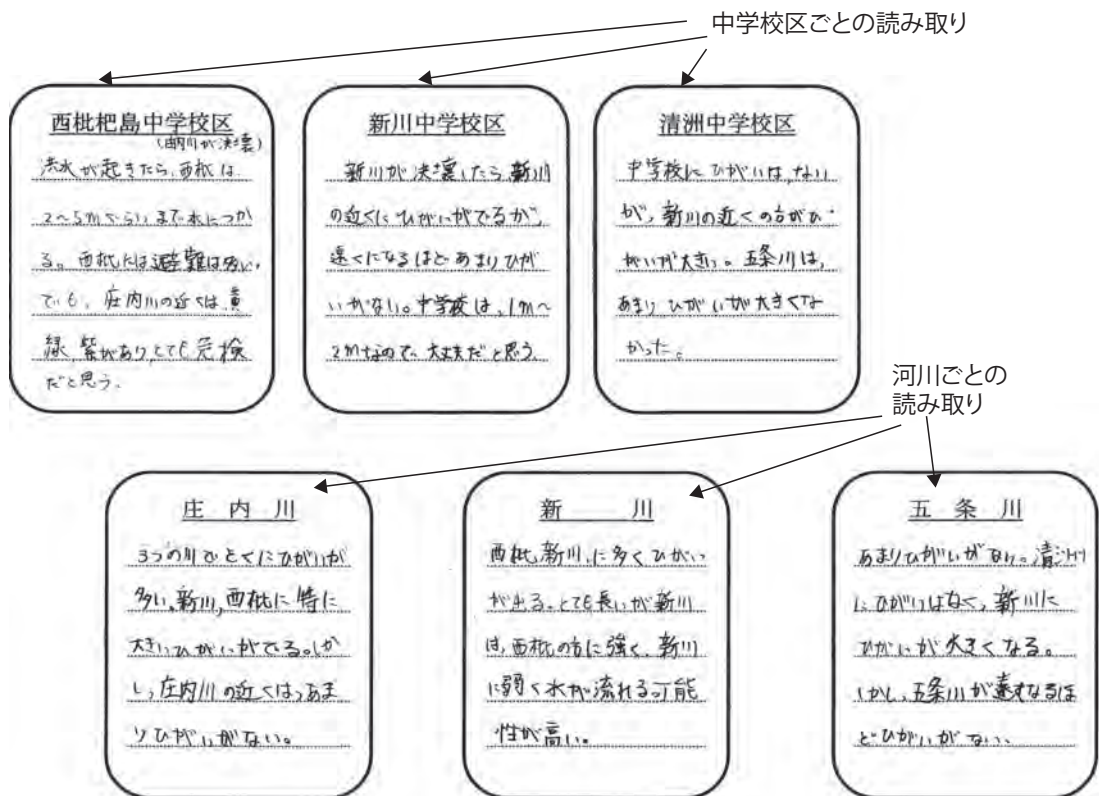
いと考え、**第4時**では「水」に関するテーマを取り上げた。地域的課題の中で最も取り上げなくてはならないことが「防災」の視点である。過去に東海豪雨という大きな災害を経験し、歴史的にも「水」と深く関わってきた地域だからこそである。

まず、東海豪雨についてのプレゼンテーションを見せた後に、清須市の作成しているハザードマップの読み取りを行わせた。**資料7**は生徒Aのものである。自分の住んでいる身近な地域が、これまで過去にどれだけ水害と闘ってきたのか、今後どのように「水」と関わっていくのか真剣に考える姿があった。生徒Aについては、三つある河川の決壊による影響の大きさを、それぞれの中学校区ごとにしっかりと読み取っている。また、土地の高低や利用の仕方にも目を向けた生徒も見られ、前時の土地利用図の読み取りが生かされていた。

第5時では、主にコンピュータを活用して、環境・伝統・開発の視点から「歴史」「個人テーマ」について調べ学習を行わせた。清須市のホームページを見る生徒が多く見られたため、清須市の将来像を示した「市建設総合計画」や清須市にとって大きなイベントであった「清須越し400年基本方針」などの資料を紹介した。歴史的特色については、織田信長、清洲城、美濃路街道、清須越しなどについて調べ学習が進められていた。また、個人テーマについても様々な資料を通して追究する様子が見られた。



写真1 コンピュータによる調べ学習



資料7 ハザードマップの読み取り（生徒A）

第6・7時では、テーマについて調べたことを基に、清須市の紹介文を作成させ、地域の特徴や課題について考察させた。紹介文には、ツールミンモデルを取り入れ、現在の清須市について調べたことを「情報」(D)の欄に、調べたことを基にして考察した清須市の特徴・課題を「理由」(W)の欄に、その根拠を基に考察したことを「結論」(C)の欄に書かせるようにした。また、調べ学習を通して再び考えたキャッチフレーズも見出しにするように指示をした。生徒たちの書いた紹介文は、第3時で考えたものをより具体化したキャッチフレーズを見出しとしてだけでなく、何を基にして、どのように考えたのかという思考の跡が一目で分かるものとなっていた。

この紹介文を作成したことで、これまで調べてきた情報を基に、地域の特徴や課題を考えることができた生徒も多く見られた。生徒Aにつ

いては、キャッチフレーズが具体化されただけでなく、清須市の特徴である「水」を河川として認識するだけでなく、これからも共生していく対象としてとらえることができている。また、「結論」(C)や「理由」(W)の項目を見ると、調べたことを根拠に自分の考えをもつことができている。他の生徒も同様に、「情報」(D)を基にして、特徴や課題を考えていた。

(3) まとめる段階（第8～10時）

第8時では、前時に作成した紹介文と市の作成した「清須市建設総合計画」を参考に、将来の清須市の姿について話し合いを行った。話し合いでは、それぞれの考える清須市の姿について、グループで情報交換をした後、テーマを絞って討論を行わせた。将来の清須市の姿について、「開発」と「伝統」の二つの視点から意見を出させることによって、より考えに深まりをもた

【キャッチフレーズの変化】

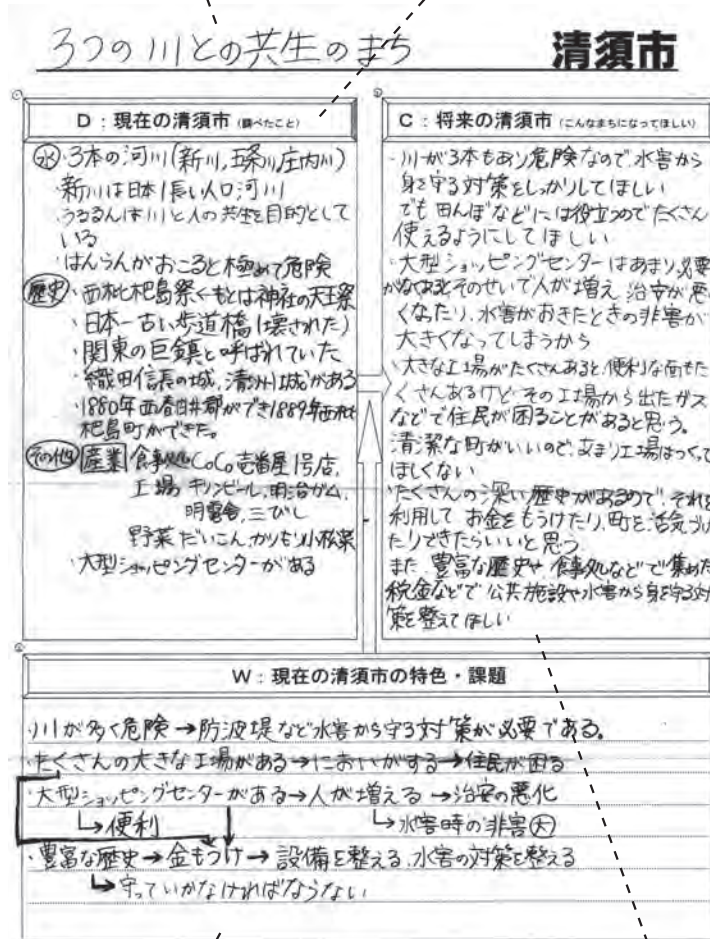
第3時「川と歴史と交通のまち清須」



第7時「三つの川との共生のまち清須」

【情報（D）現在の清須市について】

前時までに学習してきたことを統合する形で、「水」「歴史」「その他」の視点ごとにまとめられている。



【理由（W）清須市の特色・課題】

- ・川が多く危険。
- ・たくさん大きな工場がある。
- ・豊富な歴史がある。

根拠

【結論（C）将来の清須市についての願い】

- ・水害から身を守る対策をしてほしい。
- ・大きな工場があると、便利な面もあるが、環境的に住民が困るから増えてほしくない。
- ・歴史を利用して市の収入を増やし、町を元気づけてほしい。

自分の考え

せることができるだろうと考え、テーマを「清須市に大型ショッピングモールは必要か」とした。事前アンケート実施時との生徒の意見の変容については、**資料9**のとおりである。

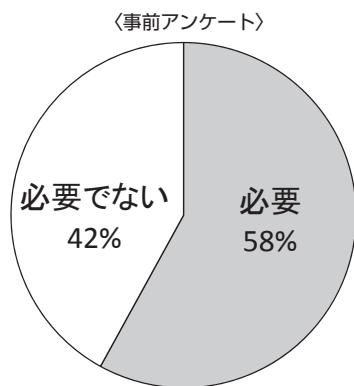
事前アンケートでは、個人的で短絡的な意見が多かったのに対して、第8時では、個人的な意見ではなく、「治安が悪くなるから」「歴史的な雰囲気が壊れるから」といった地域のことを考えた意見が増加している。これらの意見を基に話し合いが行われたが、中でも「歴史的な雰囲気が壊れる」といった「伝統」を優先する立場と「人が集まり、町が活気づく」といった「開発」を優先する立場の議論は白熱したものとなっていた。どちらも、今後の清須市がどのようにすればよりよい町になるかを考えた上での意見である。事前アンケートでは、「近くにできると便利だから」という理由で「必要である」と答えた生徒Aであったが、グループでの話し

合いでは、「清須市に大型ショッピングモールをつくると人がたくさん集まって、道路が混雑する」という意見を発表した。個人的な見方しかできていなかった生徒Aの意見が、「道路が混雑する」といった社会的な理由に基づく意見に変わっていた。

以上のような、生徒の意見の変容を見ると、学習を通して生徒は地域の一員としての意識を高めることができたと言える。さらに、社会参画の視点から自分の考えや理由を表現できる生徒が見られるようになってきた。

第9時では、自分の考えを言語を用いて表現する活動として、清須市役所に対する「提案書」を作成させた。生徒Aの提案書が**資料10**である。

これまでの学習を振り返り、まず、「調べて分かったこと」から文章が始まり、それらを基にして清須市の特色を挙げている。**(資料10の123)**



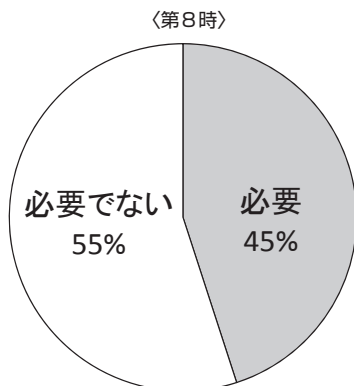
〈主な理由〉

【必要】

- ・ 近くにあると便利だから。(74%)
- ・ 人が集まり、活気が出るから。(2%)
- ・ その他 (24%)

【必要でない】

- ・ 名古屋にあるから。(49%)
- ・ 道路が混雑するから。(32%)
- ・ その他 (19%)



〈主な理由〉

【必要】

- ・ 春日には、土地があるから。(37%)
- ・ 町が活気づくから。(45%)
- ・ その他 (18%)

【必要でない】

- ・ 道路が混雑するから。(41%)
- ・ 治安が悪くなるから。(33%)
- ・ 歴史的雰囲気が壊れるから。(21%)
- ・ その他 (5%)

資料9 生徒の考えの変容

提案書

僕は今回社会の授業で清須市について調べました。そこで分かったことは、西地の中かゆ人物に織田信長がいることなどから、^①この清須市には古くからの歴史があるのだと分かりました。他にも今はもう別物になりましたが、コンクリートで^②日本初の歩道橋があったり、コイイ番店の1号店があること知りました。その他清須市にいろいろな歴史があったり日本初の物があると思うので、それらに関連する物があれば地名度も上がり観光客がもっと来るのではないかと僕は思いました。

^③分かった事のもう一つは、川が多いことでした。川が多いという事が非常に良い事だと思いましたが、逆にその川が反動した時の事を考えると^④堤防などの強化が必要だと思いました。また記憶に新しい地震に対する建物の工事が必要だと思いました。

この事から僕は今後の清須市に^⑤多くの歴史を大切にしたいと、今後に伝え残したり、地震などの^⑥災害に対する準備をしておく安全で暮らしやすい町になることを期待したいと思いました。

清須市立西枇杷島中学校

資料10 「市への提案書」(生徒A)

また、課題として④を挙げた上で、⑤⑥といった提案をしている。調べたことを基にして、根拠をもって自分の考えをもつことができている。また、考えの内容が「多くの歴史を大切にする」「災害に対する準備をする」など、個人的なことではなく、地域の一員として地域のことを考えてつくられた意見になっている。また、生徒Aの提案には「防災」と「伝統」の視点が見られる。調べ学習や話し合い活動の際に、これらの視点が明確になっていたことにより、生徒Aの考えにもしっかりと反映されているのが分かる。

る。他の生徒の代表的な提案は次のとおりである。

- ・豊かな水資源の活用
- ・川を含めた環境対策
- ・清須市の特色を広める工夫
- ・交通安全対策
- ・「あしがるバス」の活用
- ・産業の活性化 など

第10時では、清須市役所の企画課の方をゲストティーチャーとして招き、前時に作成した提案書を基に、清須市に対する提案を中心にし



ゲストティーチャーからのプレゼンテーションを受ける場面



生徒が市に対する提案を堂々と発表している場面



代表生徒による提案書の受け渡しをしている場面

写真2 第10時「清須“夢”会議」の様子

た話し合いを行った。これは、市の企画「清須“夢”会議」に参加する形となった。ゲストティーチャーから、清須市のめざすまちづくりについてのプレゼンテーションをしていただいた後に、対話形式での話し合いが行われた。生徒からは、これまでの学習で考えた提案が次々と出され、ゲストティーチャーとの質疑応答が数多く見られた。この会議に参加した後の、生徒の感想には、「自分たちの学習したことを発表する場ができたことがうれしい」や「これからの清須市を計画していく方に、直接意見を言えてよかった」など、地域の一員として会議に参加できたことを喜ぶ生徒が数多く見られた。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

ア 社会参画の視点を取り入れた地域学習を設定したことについて

市が作成したキャッチフレーズや資料を活用したことで、明確な視点をもって、調べ学習を進めることができていた。また、キャッチフレーズを考える活動を2度にわたって取り入れたことで、市の特色を自分なりに考えた言語で表現することができた。「市の紹介文」レポートの作成を通して、清須市が自分の住んでいる最も身近な地域であるという意識が見られるようになったことも成果と言える。さらに、市への「提案書」を作成し、論述によって表現させたことで自分の考えを加えた学習のまとめとすることができた。最後に、市役所の企画課の方をゲストティーチャーとして迎えて話し合い（「清須“夢”会議」への参加）を行ったことで、生徒にとっては自分の考えを発表し、それが地域社会への参画につながっているという充実感を味わうことができた。

以上のことから、生徒の思考力を育成する上で、社会参画の視点を取り入れた地域学習を実践したことによって次のような成果が得られた。

身近な地域についての興味・関心が高まり、自分自身の生活との関わりから地域をとらえさせることができた。そのことによって、地域の特色や課題を意欲的に追究し、明らかになった課題に対する「自分の考えをもつ」ことができるようになった生徒が多く見られた。また、個人的な理由でしか自分の考えをもつことができなかった生徒が、地域社会という広い視野から事象をとらえて自分の考えをもつことができるようになった。

イ 根拠に基づいた自分の考えをもつための工夫について

指導段階を大きく三つに分け、それぞれの段階ごとに育成したい思考力の構成要素を設定した。つかむ段階では、「とらえる力」の育成をねらいとし、ウェビングマップの作成を通して、自分の知識や経験を視覚化することによって、身近な事象の因果関係を理解しながら、自分自身の生活と関連づけてとらえることができた。その結果、調べる対象について興味・関心が高まり、その後の学習活動に意欲的に取り組むことができた。

追究する段階では、「分析する力」の育成をねらいとし、調べ学習において、視点を明確にした資料の読み取り活動を行った。その結果、読み取り活動が十分に行われ、その後の調べたことを基に考察する活動において、根拠となる事実を取捨選択することができた。

まとめる段階では、ツールミンモデルを用いたワークシートを活用したことで、根拠をもって自分の考えをもつことができるようになった生徒が多く見られるようになったことは大きな成果である。「調べて分かった事実」「根拠」「結論」を図式化することで、視覚的にとらえることができた。

以上のことから、生徒の思考力を育成する上で、根拠に基づいた自分の考えをもつための工夫を施したことによって、次のような成果が得

られた。

育成したい思考力の構成要素を三つに分類し、それぞれに合わせた指導過程を設定したことにより、段階的に思考力を身につけさせることができた。ウェビングマップを作成したことで、自分の知識や経験が言語によって表現され、身近な事象の因果関係をとらえることができた。また、ツールミンモデルを用いたワークシートを活用したことで、自分の考えの「根拠」が明らかになり、生徒自身が自分の考えを視覚的に把握しながら、思考することができた。言語を用いて自分の考えを表出させたことによって、その過程で思考力を育むことができた。

ウ 抽出生徒の変容

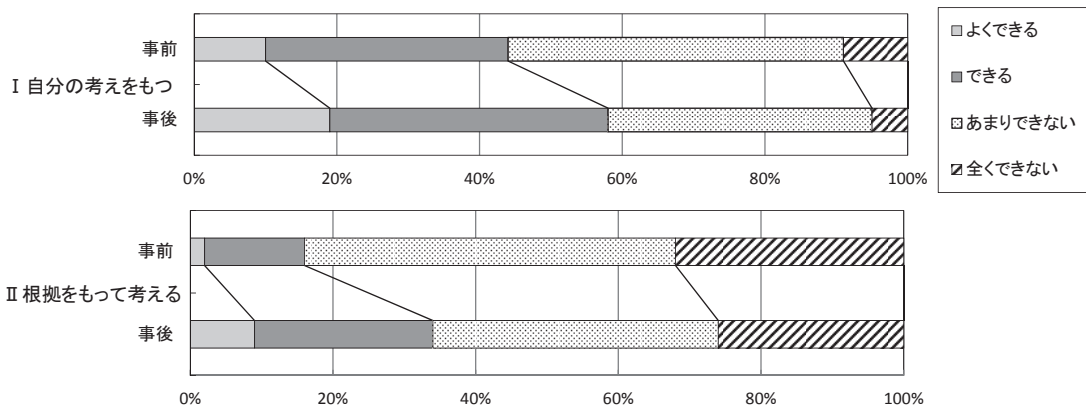
生徒A

事前アンケート時では、清須市への興味・関心が高くなかった生徒Aであった。実践当初は、清須市について有名なものをイメージしたり、有名なものについて調べたりする「学習の対象」という程度のとらえ方であったが、学習を進めていくうちに、清須市が自分にとって身近な地域であるというとらえ方ができるようになっていった。少しずつではあるが、社会参画の意識も芽生え始めてきている。以上のことから、身近な地域について、根拠に基づいて自分の考えをもつことができたと言える。

エ 事後調査について

「考えること」について、事後調査を行い、事前調査と比較したものが資料11である。

事前アンケートに比べ、「よくできる・できる」と答えた生徒が「Ⅰ自分の考えをもつ」で約10%、「Ⅱ根拠をもって考える」で約17%増加していることが分かった。



資料11 「考えること」についての事前・事後比較

(2) 課題

本実践では、思考力を育成するために、社会参画の視点を取り入れた地域学習を行ったが、自分の考えにより深まりをもたせるためには、地理的分野で学習する「身近な地域の調査」と公民的分野で学習する「地方自治」をより系統的に学習する必要があると言える。また、ツールミンモデルを用いたワークシートによって「調べて分かった事実」「根拠」「結論」を視覚的にとらえさせることはできた。しかし、テーマが大きくなり、結論の内容が複数の観点から導き出されている場合、「結論」と「根拠」の関連がとらえにくくなってしまうので、物事の因果関係が一目で分かるようなワークシートへのさらなる改善が必要である。

本研究を通して、生徒は身近な地域について、根拠に基づいて自分の考えをもつことができるようになってきた。今後も、地域学習に限ることなく、様々な社会的事象について、その特色や課題を考察し、根拠に基づいて自分の考えをもつことができるようにしていきたい。